



第一回 創学舎百人一首大会

●六月二十四日に創学舎で初めて「百人一首大会」を開催いたしました。創学舎では初めての試みでスタッフ一同何かと不安を抱えていたが、当日は天候に恵まれ、そして、出場者の方々や見学にいらした保護者の方々のおかげで非常に大会が盛り上がりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

●今大会は、小三は一对一の個人戦、小四〜小六は二人一組によるチーム戦で試合を実施しました。全体的にレベルが高く、

事前に練習してきた様子がかうかがえる出場者が何人もいました。白熱した試合が多く、観ている非常に楽しかったです。

●今大会の表彰者は次の方々です。個人総合順位は全三試合の取り札の合計枚数によるものです。



【最優秀賞(個人総合第一位)】

《図書カード三千円分贈呈》

Y・Yさん(新宿区立落合第五小三年)

【優秀賞(個人総合第二位)】

《図書カード二千円分贈呈》

S・Mさん(柏市立第八小三年)

【敢闘賞(個人総合第三位)】

《図書カード千円分贈呈》

S・Nさん(柏市立第八小六年)

【パーフェクト賞(該当者五名)】

《クオカード五百円分贈呈》

*パーフェクト賞は全三試合を全勝した方が対象です。

T・Iくん(柏市立旭小六年)

U・Sくん(柏市立旭小六年)

Y・Kさん(松戸市立小金小四年)

M・Rくん(松戸市立小金北小四年)

S・Mさん(柏市立第八小三年)

【ビタリ賞(該当者二名)】

《蛍光ペン三色セット贈呈》

*主催者による特別賞です。

U・Sくん(柏市立旭小六年)

O・Tくん(我孫子市立第四小三年)

S・Hくん(松戸市立横須賀小五年)



●表彰されたみなさん、誠におめでとうございます。なお、ささやかではございますが、今大会に出場してくださった方々全員に参加賞を授与しております。みなさんにとって良き思い出の品になれば幸いです。

●最後になりますが、今大会を通じて、みなさんに「かるた取り」の楽しさを体感していただき、今後の百人一首暗唱に良い影響を及ぼすことを強く願っています。百人一首暗唱を続けることで地頭(じあたま)を鍛え、みなさんがどんどん成長していく姿を創学舎は楽しみにしています。

(村田)

自分のものになっていく！

●小学生のみなさん、百人一首大会、お疲れさまでした。授業の中で、百人一首を覚えていま

すが、やはり、実際に札をとつてみると、「もつ」ととれるようになりたい。「あまりとれなくて悔しい。」などの思いが出てきて、頑張つて覚えようという気になりますよね！



●私は、個人的に百人一首が好きです。というのも、小学校五年生のときに一〜五十を覚えて百人一首大会、小学校六年生のときに五十一〜百を覚えて百人一首大会、中学一年生のときと高校一年生のときに百人一首大会、さらには通っていた書道教室(小学校六年間通っていました)で毎年一月に百人一首大会。というように、学生時代は百人一首にたくさん触れる機会がありました。

●小学生のときは、覚えるのに必死で、とにかく「どうすれば札がたくさんとれるか」だけを考えていました。周りにはみんなだいたい覚えているので上の句が呼ばれた瞬間、探します。その中でも、取りにくい札を発見しました。

・いにしへの 奈良の都の 八重桜 けふ九重に にはひぬるかな 六十一番

(昔の奈良の都の八重桜が今日は九重の宮中で、ひときわ美しく咲きほこっている様子を表した歌です。)

実はこの札、小学生ではとても読みにくいのです。(中学生はすらすら読めるはずですが。)

読むときは「いにしへの 奈良の都の 八重桜 きょう九重に におひぬるかな」となり、歴史的仮名遣いが多いのです。小学生の頃は「昔は現代と違う言葉遣いだった。」ということだけ教えられて、読むときに現代の読み方に変換して

読んでいましたが、下の句の最初が、「けふ」なのに「きょう」と読むことに戸惑う生徒は多かったです。つまり、反応が遅れるので「けふだけきょうと読む！」と頭に叩き込んで札をとっていました。百人一首には歴史的仮名遣いがたくさん出てきますが、繰り返し覚えるうちに「この言葉はこう変換する」というのが頭に入ってきて、言い回しが自分のものになります。中学校に入ったときの古文の授業では、「百人一首でやったことが使えるな」と思ったことを覚えていきます。



いにしへの 奈良の都の 八重桜

●繰り返し覚えていくと、自分のものになり、スラスラでてくるようになります。実は、一旦、自分のものになると時間が経つても、ちゃんと覚えていて知識をいつでもひきだせるようになります。私も、百枚完璧とまではいきませんが、特に思い入れのあった句は今でもちゃんと覚えています。皆さんも、毎回の授業で少しずつ覚えて、どんどん自分のものにしていきましょう。その積み重ねが、新たな世界へ足を踏み入れる鍵となりますよ。

(大久保)

「本の中に」

●以前テレビ番組のあるコーナーで、上京した学生を取材している姿が目に入りました。大学進学のために地方から上京、という方もいれば専門学校に行くため上京する方もいました。毎年新しい年度がスタートする時期に、今後の新生活に思いを馳せて上京する方々も多いと思

ます。その中、テレビ画面に映し出されていた
 上京したばかりの彼らは東京に来て驚いたこと
 などを話していました。これから始まる新た
 な生活に心が躍っているような雰囲気は伝わり
 なんとなく東京に来たときの自分の頃を思い出
 してどこか懐かしささえも感じました。地元と
 のギャップに驚いたことを今でも鮮明に記憶し
 ていることがいくつかあります。例えば、大手
 町の高層ビルが立ち並ぶオフィス街を見渡しな
 がら歩いていたとき、地元とは
 かけ離れていた雰囲気の場所、
 その街を颯爽と歩いている人々
 やビジネスマンを目にした瞬間、
 都会ってすごいと感じたことが
 とても印象深く残っています。



また渋谷のハチ公の実物を見て、想像していた
 よりも小さかったことに驚いたり、いつもテレ
 ビ画面からの映像を目にしていたスクランブル
 交差点を渡りながら、何だか「東京」というも
 のを感じたり、思い返してみたらとても懐かし
 く思います。

●そんな中、最近本棚にある本をもう一度読み
 返してみたくなり何冊かを手に取り読んでみま
 した。以前読んだことがある本でも時間が経ち
 改めて読み返してみると同じ内容ではあるもの
 の、初めて読んだときと違う角度から本の内容
 が頭に入ってきたり、解釈が深まったりと学び
 がそこにはありました。その読み返していた本
 の中には、大学時代に学んでいた本もありまし
 た。授業でテキストとして使用していたもので
 すが、当時は難しさを感じていたものの、改め
 て読み返してみるとその分野の面白さを感じて
 興味深く読み進めていけたと共に再度学んだこ

とも多くありました。さらに、中学生時代にお
 世話になった先生から教えていただいた購入し
 た本もありました。それは私が中学生のときに
 悩んでいた時期におすすめていただいた本で
 す。個人的にはその著者の方が執筆される本は
 読むと学びがあったり元気をもらえたりするの
 で、他の本も数冊持っているのですが大人にな
 った今でも勇気がもらえたり、発見があったり
 する本です。本の内容ももちろんですが、そこ
 に記されている言葉にもすごく力があると感じ
 ます。人が何だか惹きつけられる言葉を生み出
 せ、それを伝えられることはとても魅力的だと
 学生時代の頃から感じていましたが、今でもそ
 う思います。広告のキャッチコピーなどもその
 一つです。同じように本の中の言葉にもあると
 思います。小説や物語の本だとその中から心に
 響くフレーズがあったり、歴史の本だと歴史か
 ら学べるものがたくさんあったり、他にも色ん
 なジャンルに様々な学びや自分の中になぜだか
 すっと入ってくる言葉たちを発見したり。それ
 が時として、自分の中にずっと残るものになる
 場合もあるようです。何気なく手にした本が、
 人生のバイブル本になることだってあるかもし
 れません。そう考えると、本やその中の言葉に
 は様々な学びがあると感じます。

(比嘉)

「Vもぎ」受験のすすめ

●期末テストも終え、もう夏だ。部活の試合や
 大会がある時期だが、中三にとっては、最後の
 試合・大会となる。是非今までの練習の成果を
 出してほしい。そしてそのあとは受験勉強が
 待っている。夏休みは受験勉強を乗り越えるた

めの体力づくり・リズムづくりを行うことがで
 きる大切な時期である。二学期以降は、体育祭・
 運動会が終わり次第、周りもほとんど受験モー
 ドになっていく。だから、夏休みのうちにしっ
 かりと苦手科目に粘り強く取り組む力、副教材
 を毎日コツコツ継続する力を身につけてほしい。
 ●二学期以降は、模試・テスト等も目白押しだ。
 創学舎の塾内模試は八月以降、毎月実施される。
 学校も定期テストに加えて、実力テストも数回
 実施される。この時期に検定類を取得したい生
 徒は、検定試験の勉強もしないといけない。毎
 週のように何かしらの模試・テスト等を受けて
 いる感覚になる。これに加えて中三の君たちは、
 「Vもぎ」も受けることになる。

していくが、入試形式に慣れるためにも、Vも
 ぎを受験してたくさん問題に触れた方が良い。
 「私立Vもぎ」は、様々な私立高校の総合的な
 問題となっていて、私立高校の単願推薦で受験
 する生徒が受けるケースが
 多い。
 ●創学舎ではVもぎを三回
 以上受験することを指導し
 ている。大きな理由は二つ。
 ひとつは県立そっくりVも
 ぎで入試形式に慣れるため。
 もう一つは、志望校判定を何回か出すことによ
 り志望校をしっかりと決定するため。九月まで
 は月一回、十月以降は月二回実施されるので、
 その中で最低三回受験することとなる。特に十
 二月のVもぎは最大の受験者数となるので、か
 なり正確な学力測定が可能となる。だから、各
 教室から説明があると思うが、十二月は必ず一
 回受験しよう。受験会場については、近くの会
 場でもよいが、自分が受験する私立高校を選ん
 で、高校見学や通学路の下見をするのもいい。



●進学研究会の「Vもぎ」は、千葉県内で受験
 者が最大の会場模擬試験である。公立高校を第
 一志望とする県内中三のうち、
 約七割の生徒が一回以上、V
 もぎを受験している。受験者
 数の多さから、入試本番にも
 つとも近い模擬試験といえる
 また、入試本番は知らない受
 験生たちと同じ教室で試験を受けることになる
 が、その独特の緊張感も、このVもぎである程
 度味わうことができる。



●Vもぎの種類は、「県立そっくりVもぎ」と「私
 立Vもぎ」の二種類である。「県立そっくりVも
 ぎ」は、千葉県公立高校の入試問題に即した形
 式の問題構成となっている。千葉県の入試問題
 は、普段の学校の定期テストとは全く形式が異
 なる。最も顕著なのは国語に聞き取り問題があ
 ることや英語のリスニングが長いことだろうか。
 もちろん、創学舎でも過去問を解く等、対策を

●最後となるが、受験したVもぎは必ず解き直
 そう。通常の模試でもいえることだが、志望校
 判定だけを見て一喜一憂していても学力は向上
 しない。なぜ間違えたのか、何を間違えたのか、
 どうすればその間違いを防げるかというところ
 までしっかりと復習することが
 大事だ。Vもぎをきちんと活
 用して、志望校合格へとつな
 げよう。

(本多)

▼▲継続希望の方へ▲▼
 ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方
 にも、ご希望があれば創学舎ニュー
 スを無料でお送りいたします。
 ▶在籍していた教室までご連絡くだ
 さい。